

終戦後の幼児の特質

愛育研究所員 竹田俊雄

終戦によるあらゆる變化と共に、日本の幼児はどう變つたか。我々が昭和二十一年五月、東京都内の公私の幼稚園、託児所、乳兒院、育兒院を對象として行つた「保育施設調査」の一項目である「終戦後保育している兒童に見られる特質」について、各施設の保姆あるいは園長等が回答された結果をとりまとめてここに一資料として提示する。

この問題に對する回答は、開設中としての回答があつた七

四施設中、六二施設から得られたが、その中、九施設は幼兒に著しい變化が見られないし、他の五三施設からは一四一

第一表 變化の有無

回答 数	施設別						総回答 数
	幼稚園	幼稚園	公立	私立	託兒所	託兒所	
回答總數回	八	三	一	八	〇	一	一〇〇.〇%
白答數回	一	四	一	六	二	一	二・二%
變化化 がいが ある	一〇	三	九	四	三	一	二・六%

件についての變化が報告されている。(第一表) 舉げられてゐる變化は種々雑多であるが、これは大別すれば次の六種類となる。

- 1 智能、興味、遊びに關するもの
- 2 性格に關するもの
- 3 健康に關するもの
- 4 食生活に關するもの
- 5 衣生活に關するもの
- 6 家庭に關するもの

そしてこれらの中、性格に關する變化を擧げてゐるもののが著しく多く、全件數の六一七を占めている。戰爭の終結という社會環境に於ける極めて大きい變化が、環境によつて形成される性格に影響することころ甚だなることはけだし當然の歸結であろう。

また第二表では括弧内に一施設當りの平均報告件數を掲げたが、これによれば幼稚園、託兒所の兩者とも公立より私立に多くの變化が認められてゐる。そして全體としては幼稚園と託兒所との間に殆ど差が見出されない。これらは兒童自體

第二表 變化の件數 (括弧内は施設當り)

種 目	施 設		別
	公 立	私 立	
智 能 興 味 遊 び	(0.30)	(0.28)	公 立
性 格	(0.27)	(0.24)	私 立
健 康	(0.19)	(0.17)	託 兒 所
食 生 活	(0.15)	(0.14)	育 兒 院
衣 生 活	(0.14)	(0.13)	計
家 庭	(0.13)	(0.12)	
計	(0.13)	(0.12)	

する
總件數に對
百分率

立託児所では問題とされていないが、公立の幼稚園でも、私立の幼稚園や、託児所でも第一に指摘されている。そしてこれらは行動ばかりでなく言葉の上の荒々しさをも含んでいる。

にもとづくものであろうか、觀察者によるものであろうか。さて幼兒の性格の面に於ける變化はいかなるものが着目されているか、回答者の用語は種々雑多であるが、これを要約すると第三表のようになる。

この表に見られる通り「従順」と「反抗的」「弱さ」と「たましさ」「明朗」と「元氣がない」などような相反する傾向も同時にかぞえられ、また「たくましさ」と「圖々しさ」と「現實的」というような、少しくいふれば、好ましくもなり、斥けなくてはならぬもなう特質もあるが、これを大觀すると「おちつきなく煩躁」という性格が最も著しく、性格上の變化の約半數(四六・〇%)を占めている。公

と逆の方向にある「よりどころがなく空虚が見られる」「不安」「恐怖心をもつ」「意志薄弱」というような消極的な性格も幾分目立つてゐる。また一般に「品性の低下」がいわれてゐるが、「盜み」や「よくぱり」「物的衝動的」「惡への芽生え」は報告の限りに於ては幸いにして少數である。

性格以外の問題は比較的少數であるが(第二表)、智能、興味、遊びについては「遊び」の貧困と「智能の低下」とが強調され、「英語」や「進駐軍への興味」が挙げられてゐる。

「進駐軍の眞似をする」という傾向も多い。

健康については「健康」「發育」「體質」「體力」の「低下」が唱えられ「衛生的に不潔」になり「かいせん等の皮膚

第三表 性格上の變化

(括弧内は施設當り)

特 質	施 設					
	幼稚園立	幼稚園立	私 立	公 立	私 立	別 別
品性の低下	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
従反	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
弱易	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
抗的	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
順	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
總	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
圖々しさ	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
現実	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
明瞭	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
元氣がない	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
益よみばり等	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
病	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
食生活の面では「食糧の不足」から「食物の話」が多く、 「空腹を訴え」たり、「食食をいそいだり」、「食食をもつて來なかつたり」、「辦當のために缺席する」ことがあり、 「辦當の盗まれる」事件も惹起する。「買喰い」が多くなつ	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
計	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
る百分率に對す	三・四%	六・九%	一・一%	五・七%	一・六%	三・四%
計	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一	○・一
總百分率	三・四%	六・九%	一・一%	五・七%	一・六%	三・四%

たり、「おやつを目あての通園」が見られる反面、「偏食」はなくなつたようである。

衣生活は「服裝が整わず」「不潔」であり、「はだし」で通園するものもあるが、他方「履物」や「所持品」を大切にする傾向も見られる。

家庭は「勤労階級」や「新圓階級」の増加が報告されてゐるが、「戰災者」の多いところもある。そして家庭の態度として、社會的な事情の悪化から、一般的に子供を世話を餘裕が時間的にも心理的にも親になくなり、幼兒を「放任」し「躰け」がまつたく顧みられなくなつていると強く叫ばれている。

以上この調査の結果を要約して述べたが、この資料は「家庭に於ける躰け」の再建と「おちつきなく粗暴な性格」の矯正とが、終戰後に於ける日本の幼兒教育の重要な課題として強調されなければならないことを指示示してゐる。